

第60回卒業式式辞

本格的な春を間近に感じる今日の佳き日に、農友会会長様並びに副会長様、学校評議員の皆様、本校PTA役員の皆様を御来賓にお迎えし、第60回卒業証書授与式を挙行できますことに心よりお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。ただいま、皆さんに高等学校の教育課程を修了した証として卒業証書を授与いたしました。義務教育を終え、希望を胸に本校へ入学した日から3年が経とうとしています。今日という日は、高校生活において努力を積み重ねてきた皆さんにとっての、大きな目標の一つであったことでしょう。

これまでの歩みを振り返ると、ご家族や先生方、友人、地域の方々等、多くの人の支えがあったことに気付くはずです。どうか、そうした方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。これまでの18年間、お子様に寄り添い、励まし、時には厳しく導いてこられたことと思います。本日は、その御苦勞が報われる日でもあります。高校から旅立つお子様を、引き続き温かく見守っていただければ幸いに存じます。

さて、卒業生の皆さんは、伝統ある都城農業高校で、限りある人生の大切な3年間を過ごしました。「自他敬愛」「知徳耕道」「見聞知行」の校訓の下、創立109年を迎えるこの学校で学び、成長してきました。自らの成長のために、地域産業界と連携した専門学習、農業クラブ活動、部活動等、それぞれの場で努力したことを私は高く評価します。

中には、思うような結果を出せなかった人もいますが、努力したことは決して無駄ではありません。例えば、元メジャーリーガーのイチロー選手は、次のように語っています。「結果が出ない時、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が何かを生み出すきっかけをつくる。」この言葉のように、目標に向かって努力した経験は、形を変えて必ず未来へとつながります。結果が出なくても、あきらめない姿勢を持ち続けながら、どのような時にでも前を向いて歩いていくことを期待しています。

ところで、一昔前までの安定した時代は、「学んで、働き、そして引退する」という、スリー・ステージの人生を送る社会でした。しかし、これからの予測が困難な時代は、生涯を通して「学んで、働く」を繰り返す、マルチ・ステージの人生を送る社会です。変化の激しい社会は、常に新しい知識や技術を学び、その成果を活かしながら働くことを皆さんに求めてくるでしょう。

その中で忘れてはならない大切なことは、「誰のために、何のために働くのか」という勤労に対する心構えです。「働くとは、端々を楽にさせること」という言葉があります。人間が働くのは、自分のためだけではありません。周囲の人々を思いやり、助け合いながら働くことが、自分自身を成長させ、社会全体に幸せをもたらします。

また、長い人生です。楽しいこともあれば、時には思うようにいかないことがあるのが当然です。「人生万事塞翁が馬」という故事成語があるように、良いことも悪いことも波のように巡ってきます。だからこそ、「七転び八起き」の精神を大切にしてください。7回転んでも、8回起き上がれば勝ちです。

ただ、時には困難にぶつかり、疲れてしまうことが誰にでもあります。そういう時は、いつでも本校を訪ねて来てください。そして、栄えある都城農業高校の卒業生であるという自覚を新たにし、元気と勇気を取り戻してください。都城農業高校は、いつまでも皆さんの誇りであり、いつでも帰ってくることのできる母校です。

最後になりますが、まずは健康を大切にしてください。「よく食べ、よく寝て、体を動かし、適度なストレスを感じながら生活することが大切だ」と言われています。皆さんは、3年間、農業や農業に関連する学習に取り組み、いろいろな経験を積んできました。その知識をフルに生かして、心身ともに健やかな生活を送ってください。

いよいよ学び舎からの旅立ちの時が来ました。3年間の高校生活、本当にお疲れ様でした。これからの新たな出会いと挑戦が、皆さんの人生をより豊かにすることを祈念して、式辞といたします。

令和7年3月1日

宮崎県立都城農業高等学校

校長 山下 勉